

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K03335

研究課題名(和文) 心理療法過程におけるアタッチメント方略の変化に関するDMM-AAIによる検証

研究課題名(英文) DMM-AAI Validation of Changes in Attachment Strategies in the Psychotherapy Process

研究代表者

三上 謙一 (Mikami, Kenichi)

北海道教育大学・保健管理センター・教授

研究者番号：90410399

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：クライアントにTAAIを実施した結果は、カウンセリングに対してとても真面目で従順であったこと(A4)、強迫的従順方略(A4)が父親の喪失に際して喪の作業を妨げて、結果として喪失は未解決のままになり、抑うつ状態に至ったという発症のプロセス、さらにはそれにもかかわらずA4からBへと変化のプロセスの準備段階にあることを示していた。彼のカウンセリングは比較的短期間で終了したが、それはカウンセリングによって、A4方略によって強く抑制していた父親の喪失をめぐる感情を安全な形で表現できたことが抑うつ状態の軽減につながったためであると思われる。さらにそれはBタイプへの方略の再構成にもつながったことが示唆される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は第一に日本で始めてDMM-AAIの青年期版であるTAAIを用いた研究であるという点にある。研究によると従来のAAIは青年期の心理的課題に適切に対応していないことが示唆されている。そのため青年期のアタッチメントをより正確に分類するためにTAAIのさらなる研究が期待される。第二に本研究からTAAIの分類結果が心理療法におけるクライアントの変化のプロセスに極めて関連が強いことが示唆された。このことからDMM-AAIやTAAIを心理療法のアセスメントとして使用することで、クライアントの迅速な治療変化のためにどのような介入が必要であるのかを考えることができる、ということが示唆される。

研究成果の概要(英文)：The results of the TAAI administered to the client showed that he was very diligent and compliant to counseling (A4), that his compulsive obedience strategy (A4) interfered with his mourning process upon the loss of his father, resulting in the loss remaining unresolved and the onset process leading to depression, and that he was nevertheless He was nevertheless in the preparatory stage of the process of change from A4 to B. His counseling was relatively short-lived, probably because it allowed him to express in a safe way his feelings about the loss of his father, which had been strongly suppressed by the A4 strategy, leading to a reduction in his depression. It is also suggested that this led to a reorganization of his strategy toward Type B.

研究分野：アタッチメント

キーワード：DMM-AAI 心理療法における変化のプロセス アタッチメント方略

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 未熟な状態で生まれてくる人間の子どもは生き残るために養育者からの保護と慰めを必要とする。この関係性をアタッチメント関係と呼ぶ。そしてアタッチメント関係を維持するために、目の前の養育者の応答の仕方に最も適した関わり方を組織化する。これがアタッチメント方略である。幼少期に形成されたアタッチメント方略は基本的には持続しつつも、可変性を持つと Bowlby(1973)は仮定した。その後の実証研究では環境の変化に応じて、幼少期のアタッチメント方略が持続する場合もあれば、変化する場合もあることが示された(例えば、Waters et al., 2000)。
- (2) 特に臨床的に興味深いのは幼少期の家庭環境が恵まれなくても大人になってから安定型と評定される獲得安定型に関する研究である。これは臨床家に希望を与える結果であるが、縦断研究では後ろ向き研究が多いなど方法論的な弱点も指摘されている(例えば、Roisman et al., 2002)。そのため、心理療法過程においてアタッチメント方略がどのように変化するのかを検証する必要性が指摘されてきた(Hesse, 2016; 三上, 2023)。

## 2. 研究の目的

- (1) 以上のような問題意識から、本研究は心理療法過程においてアタッチメント方略がどのように変化するのかを検証することを目的とした。方略の変化を捉えるために、アタッチメント研究者である Crittenden が開発した DMM-AAI (DMM 方式のアダルト・アタッチメント・インタビュー) を用いることとした。DMM-AAI は Main が開発した従来の AAI を臨床群に適用するために修正したものである(Crittenden & Landini, 2011)。
- (2) ただし、AAI を 20 代前半までの青年に適用すると、不安定型が多くなることが示されている。そのため Crittenden は青年期用に「成人移行期アタッチメント・インタビュー(TAAI)」を開発した(Crittenden, 2005)。本研究では TAAI をカウンセリングのクライアントに実施し、その分類結果とカウンセリングプロセスとの対応を検討することによって、方略の変化に与える要因について探索していく。

## 3. 研究の方法

- (1) 父親の喪失をきっかけに抑うつ状態になって来談した大学生に対して成人移行期アタッチメント・インタビュー (TAAI) を実施し、カウンセリングにおける変化のプロセスとの関連を検討した。従来の成人のアタッチメントをアセスメントするインタビューであるアダルト・アタッチメント・インタビュー (AAI) が 26 歳以上を対象としているのに対して、TAAI は 25 歳以下の若者に適用できるように、AAI の内容を若干修正したものである。
- (2) TAAI の結果は録音した上で、言い淀みも含めてできるだけ正確に逐語記録として書き起こした。その上で英訳を作り、TAAI の分析に関して信頼性のあるアメリカ人のコーダーに分析を依頼した。

## 4. 研究成果

(1) その結果、このクライアントの TAAI の分類は、RtC (Dp UI(ds)F A4 B) であった。まず RtC とは Readiness to consider change の略であり、このクライアントの精神状態が「変化への準備を考慮している」状態であることを意味している。これはインタビュアーが同時に彼のカウンセラーでもあったことが影響していると考えられる。父親の喪失による抑うつ状態から変化しようという彼の動機付けをよく捉えていると思われる。ではどのように変化するかというと A4 (強迫的従順) 方略から B (安定型) 方略へと向かっていることが示唆されている。次に Dp とは抑うつ状態を意味しており、カウンセリングを始めた当初の彼が抑うつ的であったことを示唆する。さらに UI(ds)F とは父親の喪失を軽視する形式での「未解決の喪失」状態にあることを示している。これは父親が亡くなった際に彼が涙を見せることなく、喪失を正に「軽視」したまま未解決であったことをよく表わしている。このように TAAI はクライアントの心理状態を的

確に反映しており、カウンセリングの変化のプロセスを検討する上で有用であると思われた。(2)クライアントに TAAI を実施した結果は、彼がカウンセリングに対してとても真面目で従順であったこと (A4)、強迫的従順方略 (A4) が父親の喪失に際して喪の作業を妨げて、結果として喪失は未解決のままになり、抑うつ状態に至ったという発症のプロセス、さらにはそれにもかかわらず A4 から B へと変化のプロセスの準備段階にあるということを示していた。彼のカウンセリングは比較的短期間で終了したが、それはカウンセリングによって、A4 方略によって強く抑制していた父親の喪失をめぐる感情を安全な形で表現できたことが抑うつ状態の軽減につながったためであると思われる。さらにそれは B タイプへの方略の再構成にもつながったことが示唆される。

(3)本研究の意義は第一に日本で初めて DMM-AAI の青年期版である TAAI を用いた研究であるという点にある。これまでの研究によると従来の AAI は青年期の心理的課題に適切に対応していないことが示唆されている。そのため青年期のアタッチメントをより正確に分類するために TAAI のさらなる研究が期待される。第二に本研究から TAAI の分類結果が心理療法やカウンセリングにおけるクライアントの変化のプロセスに極めて関連が強いことが示唆された。このことから DMM-AAI や TAAI を心理療法のアセスメントとして使用することによって、クライアントの迅速な治療的变化のためにどのような介入が必要であるのかを考えることができる、ということが示唆される。

#### <引用文献>

Bowlby *Attachment and Loss: Separation*. London: Hogarth Press. 1973, 黒田実郎、岡田洋子、吉田恒子、(訳) 母子関係の理論 分離不安、岩崎学術出版社、1977

Waters, E., Merrick, S., Treboux, D., Crowell, J., & Albersheim, L. Attachment Security in Infancy and Early Adulthood: A Twenty-Year Longitudinal Study. *Child Development*, **71**, 684-689, 2000

Roisman, G.I., Padrón, E., Sroufe, L.A., & Egeland, B. Earned-Secure Attachment Status in Retrospect and Prospect. *Child Development*, **73**, 1204-1219, 2002

Hesse, E. The Adult Attachment Interview: Protocol, Method of Analysis, and Selected Empirical Studies: 1985-2015. In J. Cassidy & P. R. Shaver (Eds.) *Handbook of Attachment: Theory, Research, and Clinical Applications. Third Edition*. New York: The Guilford Press, 2016, 553-597

三上謙一、臨床に活かすアタッチメント、岩崎学術出版社、2023

Crittenden, P.M. & Landini, A. *Assessing Adult Attachment: A Dynamic-Maturational Approach to Discourse Analysis*. New York: W.W. Norton & Company, 2011 三上謙一、(監訳)、成人アタッチメントのアセスメント：動的 - 成熟モデルによる談話分析、岩崎学術出版社、2018

Crittenden, P.M. Transition to Adulthood Attachment Interview. Unpublished Manuscript. Miami, 2005

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三上謙一	4. 巻 30
2. 論文標題 Crittendenの「アタッチメントと適応の動的 成熟モデル(DMM)」による成人アタッチメント研究の展望 - 実証研究、事例研究、および司法場面への応用について -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思春期青年期精神医学	6. 最初と最後の頁 38-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上謙一	4. 巻 29
2. 論文標題 Crittendenの「アタッチメントと適応の動的 成熟モデル(DMM)」による成人アタッチメント研究の展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思春期青年期精神医学	6. 最初と最後の頁 125-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenichi Mikami	4. 巻 13
2. 論文標題 Using the DMM-AAI to overcome ruptures in therapeutic alliance	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ATTACHMENT: New Directions in Psychotherapy and Relational Psychoanalysis	6. 最初と最後の頁 64-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kenichi Mikami
2. 発表標題 Dr Kenichi Mikami speaks about the DMM and Japan
3. 学会等名 DMM community (on line) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kenichi Mikami
2. 発表標題 Introduction to Dynamic Maturation Model (DMM) of Attachment and Adaptation in Asia
3. 学会等名 The 10th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 三上謙一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 児童虐待における司法面接と子ども支援:ともに歩むネットワーク構築をめざして	

1. 著者名 三上謙一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 首都大学東京博士論文	5. 総ページ数 363
3. 書名 青年期以降のクライアントとの心理療法におけるアタッチメントの活用に関する研究	

1. 著者名 三上謙一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 400
3. 書名 臨床に活かすアタッチメント	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------